

地域の魅力、地域資源を商業学科の専門性を活かし、PRする

地域資源を活かす高校生コンソーシアム KURASHO

活動の目的

地域資源を本校の教育活動に活かし、探究的な学びの実現を図る。主体性・協働性・探究性・社会性を高める授業実践に取り組み、教育効果を地域の関係者と共有する。(地方創生政策アイデアコンテストの企画を実現させる趣旨で設立したが、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されているため、実現可能な取組を検討し、実施させている)

①地場産業である繊維産業の理解のために、フィールドワーク学習に取り組み、その学習の成果として倉敷美観地区にてワークショップを展開した(年4回)。②倉敷美観地区を中心とした情報発信としてweb制作に取り組んだ。ターゲットは、同年代の修学旅行生であり、短時間で観光を楽しめるコンテンツを発信している。

活動の内容及び経過

【中核市長サミット2020in倉敷】サミット翌日に関連行事として中核市市長による市内視察が開催された。この際に、アイデアである地元特産品を使った「温羅めし」を倉敷国際ホテルが企画・調理をし、提供した。この会場にて企画の説明等を担当した。

【倉商ツムグプロジェクト～倉敷美観地区にてワークショップの実施】

11月7日(土)、11月14日(土)、倉商ツムグプロジェクトのメンバーが倉敷美観地区2か所(倉敷公民館前・倉敷アイビースクエア内)で倉敷の繊維製品のPR活動を行った。倉敷の繊維製品に関するクイズを出題し、回答者にはオリジナルコースターを配布するなど、繊維製品に興味関心を持っていただくイベントを11月の土曜日ごとに開催した。

【修学旅行生に向けた情報発信～倉敷SHOWたいむ～作成】倉敷美観地区に修学旅行で来訪する同年代をターゲットに情報発信を企画した。大阪から来訪した修学旅行生にインタビューをするなど事前調査を行い、修学旅行生が訪れそうな施設や店舗を紹介した。

活動の成果・効果

初年度の活動テーマを「地域資源の理解と魅力発信」と設定した。新型コロナウイルス感染症による休校により、計画を大幅に見直さざるを得なくなった。全国一斉休校による学習機会の制限とともに、再開後は優先課題も多く、校外学習等の制限もあり、活動可能な範囲での再検討、実行を進めた。倉敷の地場産業である繊維産業を紹介するワークショップとして立ち上がった「倉商ツムグプロジェクト」は、フィールドワーク学習を経て、リアリティを持った知識として定着させるためのワークショップである。体験的な学習としてのインプ



修学旅行生向け情報発信 Web制作



大阪からの修学旅行生にインタビュー



ツムグプロジェクト 繊維製品のPR

ツムグプロジェクト 繊維製品のPR

トからのアウトプットの良い実践の流れとして、定着させていきたい。倉敷美観地区の修学旅行生向けのメディア「倉敷SHOWたいむ」は、ターゲットを明確にした取組であり、商業学科としての専門性を活かすことができた。

今後の課題と問題点

地方創生アイデアコンテスト2019の企画の実現に対しては、不完全ではあるが、市役所のお声かけと倉敷国際ホテルの尽力により、小規模であっても実現したが、高校生主体としての実践としては、未達であり、今後再考したいところである。

生徒にどのような能力が身についたのか、効果的であった場面、探究活動が促進された場面などを整理し、次年度へつなげていきたい。

- 代表者：川井敏之 ●所在地：倉敷市白楽町
- TEL：086-422-5577 ●E-MAIL：kurasho@pref.okayama.jp
- 設立年：2020年 ●メンバー数：9名